

科目名	高次脳機能障害治療学演習				授業の種類	演習	講師名	延東 浩輝
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年 前期

【授業の目的・ねらい】

作業療法として必要な高次脳機能障害の知識を深め、観察や検査を用いて評価できる技術を身につける。評価結果から症例の全体像を捉え、適切な介入方法を考えることができる。

【実務者経験】

作業療法士として順心リハビリテーション病院に勤務、身体障害領域の幅広いリハビリテーションに従事経験。

【授業全体の内容の概要】

高次脳機能障害の症状や介入方法、評価法について講義とグループワークを通して知識を深める。また、検査を実際に使用して実技を行い、検査の方法や評価の仕方・観察事項学ぶ。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

- ①各症状に対して適切な評価項目を列挙することができる。
- ②評価の方法・手順を理解し、クラスメイトに実施できる。
- ③症例に対して評価を行い、評価結果から適切な介入方法を考えることができる。

回数	講義内容	準備物(教材)
1	オリエンテーション、評価の概要	教科書、資料 プロジェクト等
2	評価の概要、注意障害	教科書、資料 プロジェクト等
3	注意障害	教科書、資料 プロジェクト等
4	記憶障害	教科書、資料 プロジェクト等
5	記憶障害	教科書、資料 プロジェクト等
6	失語	教科書、資料 プロジェクト等
7	失語	教科書、資料 プロジェクト等
8	失行	教科書、資料 プロジェクト等
9	失行	教科書、資料 プロジェクト等
10	失認	教科書、資料 プロジェクト等
11	半側空間無視	教科書、資料 プロジェクト等
12	半側空間無視	教科書、資料 プロジェクト等
13	遂行機能障害	教科書、資料 プロジェクト等
14	遂行機能障害	教科書、資料 プロジェクト等
15	社会的行動障害、認知症	教科書、資料 プロジェクト等
	定期筆記試験	

【使用教科書・教材・参考書】

高次脳機能障害学 第3版 石合 純夫 医歯薬出版

【準備学習・時間外学習】

検査の目的や意義を理解し、それぞれの検査が行えるよう復習しておく

【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。

試験は定期筆記試験を100点とする。

60点以上の場合に科目を認定する。